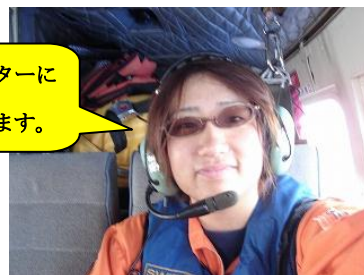


航空機のお医者さん

羽田航空基地整備士

ヘリコプターに
乗っています。



— 現在の仕事の内容はどのようなことですか？ —

私は現在、羽田航空基地の整備科で働いています。

海上保安庁の整備士は航空機の整備業務だけをしているのかな？と思う方もいると思いますが、乗員として海上のパトロールはもちろん、捜索・救助・急患輸送まで多岐にわたり行っています。皆さんが良く知っている海猿（潜水士）をヘリコプターから吊り上げたり、降ろしたりする作業は実は整備士が行っています。

私は航空員として航空機に乗っていますが、船舶調査や流出油の調査を行うときは写真や映像を撮影しています。高速で空を飛んでいる飛行機からの写真撮影は緊張の連続です。

また、ベテラン整備士の後ろについて日々勉強しています。航空整備士は航空機のお医者さんですから、日々の勉強を欠かさないことが、私の大切な仕事でもあります。航空機の調子に耳を傾けて、毎日安全運航できるように備えています。

— 海上保安庁に入った動機やきっかけは何でしたか？ —

学生のときに測量士補の資格を取得していたので、最初は海上保安庁で海図作成の仕事をしようと思っていました。しかし、手に取ったパンフレットで海上保安庁に航空機があることを知り、航空機職員は、その機動力を活かして誰よりも早く現場にいける！そして、私が行きたい！とそう思うようになりました。

— 海上保安庁に入って、印象に残っていることは何ですか？ —

私の最初の配属先は、沖縄県の石垣航空基地でした。石垣基地では離島からの急患輸送を行っており、乗員として何度も患者さんを空輸しましたが、安全に空輸し、無事に救急車に引継ぎできたときはホッとしました。そして、元気になって基地に挨拶に来てくださる方の笑顔が、なによりうれしかったです。

また、環境教室で離島の小学校へ紙芝居の公演に行ったときのことで。歌で精一杯お返ししてくれた子供たちの歌声にとっても感動しました。

ちなみに、海上保安庁で一番紙芝居が上手なのは私だと自負しています。

— これから海上保安庁を希望する人達に一言 —

あなたは10年後の自分の姿を想像できますか？30歳、40歳、50歳のあなた

はどのような人になっていたいですか？

海上保安官の仕事は多岐にわたっています。その中であなたの理想に少しでも近づけるように。あなたの可能性を海上保安庁は応援します。